



3月8日から開催された第1回定例町議会で、泉亭町長と山内教育長から、平成23年度の町政および教育行政の執行方針が示されました。

平成23年度

町政 執行 方針



第5次総合計画がスタートしてから2か年が過ぎ、平成23年度は、各事業の成果を目に見える形にしなければならぬと考えます。

国政が混迷を深め、地方経済の低迷が長く続く昨今、一地方である当別町が活性化するために、コミュニティを基盤としつつ、愛町心を持って町政に参画しようとする町民の潜在力をさらに引き出す努力をしなければなりません。

第5次総合計画では、「活力に満ちた美しいまち」を標榜し、重点プランを

列挙していますが、それぞれのプランを連携させて、活性化を見える形にしたいと考えます。

当別町140年で再発見した「当別力」ともいうべき一致団結力は、決して一朝一夕のものではなく、当別町民は永く受け継いできました。

このかけがえのない誇り高い伝統を守っていきたいと思います。

ひとり一人の町民の力を「当別力」として結集し、第5次総合計画達成のために皆様の一層のご理解とご協力を心からお願いします。



1 がんばる経済活動への支援

3つの「コウ」で農業を活かす

◆ 3つの「コウ」をキーワードとした農業振興策・商工業活性化策を展開

『観光』と農業の融合』『健康』をキーワードとした農産物の生産「健康という付加価値を持った農産物の『加工』」の3つの「コウ」に注目し、販売促進につなげるために、商品と生産地域の双方をブランドへ発展させることを目指します。

昨年設立した「当別新産業活性化センター」は、当別ブランドを誕生させるた

めに6次産業化も視野に入れながら、地域一丸となったブランドづくりの意識醸成を担っていきます。

町としても、札幌市アンテナショップへの出展、軽トラマーケットの開催、札幌市及び首都圏でのPR事業、PRポスターや動画の作成などを実施するほか、町と活性化センターが連携し、当別製品の知名度を高める「認証制度事業」を実施します。



2 いきいきとした地域コミュニティの創出

住民や大学とより繋がる

◆ 地域担当職員制度の推進

平成 21 年度から導入された地域担当職員制度は、多くの町内会で利用され、着実に制度の浸透が進み、町内会間の連携にもつながる活動に発展しています。

地域の活性化に対して積極的なサポート体制の確立に努め、すべての町内会での利用をお願いし、地域と行政の情報共有・意識共有に努めます。

◆ 町民活動支援システム(ポータルサイト)

インターネットを介して、地域の情報共有を進めるシステムとして昨年導入しましたが、地域コミュニティ向上のツールとして有効であることから、町内会をはじめ様々な組織・団体にシステムへの

参画を呼びかけるとともに、ITに関する相談会の実施など、サポート体制を強化します。

◆ 北海道医療大学との連携・交流

北海道医療大学が持つ教職員や学生・卒業生などの人的財産、専門知識や技術などの知的財産、施設などのハード的財産など様々な財産を、町も最大限に活用させていただき、町と大学双方の活性化につながる施策を実施するほか、学生が町内に居住し、若いエネルギーを町内で発揮できるような連携を進めます。

また、町内の農業者・商工業者と薬学部の学生・教職員による農産物を使った新たなブランドの誕生も期待しています。



3 地域で見守り育てる福祉・教育 環境の創造

世代の枠を越えた共生へ

◆ 共生型福祉活動の展開

23 年度は「ゆうゆう 24」による共生型コミュニティ農園事業を進める予定ですが、共生型の福祉活動をさらに進め、より多くの方が気軽に参加していただけるよう世代の枠を超えた「学びあい」「語り合い」の場の創出に取り組みます。

◆ 幼稚園・保育所の一元化の推進

当別幼稚園敷地内に完成した「認定こども園 当別夢の国幼稚園」は、幼児教育・保育が一体となり、子育て支援の環境が強化・充実されます。また、ふとみ保育所については民間に委託し、町の指導のもと、よりきめ細やかな保育サービスの確立を目指します。





4 自然や田園などの景観に魅せられるまちづくり / ふるさとの美観をみんなで

◆当別町景観計画の推進

景観計画に基づき、町民が景観維持・美化活動に参加しやすく、全町あげて地域ぐるみで取り組む「集中美化強化月間」を昨年度に引き続き設定し、また、住宅地として景観や住環境を保全し次代へ引き継ぐため、地区計画や景観地区等の指定に向け検討を進めます。

◆農村景観の向上

「美しく良好な農地で生産された農産物は、安全・安心」という付加価値を高めるために、農地・水・環境保全向上対策の活動組織が中心となり、活動に取り組みます。また、本町面積の6割を占める森林は、当別ダム水源としても大切であり、「低炭素社会の実現」に大きな役割を果たすことから、森林環境整備を推進します。

5 その他、重要施策 / ふれバの自立を目指す

◆公共交通の充実

当別町コミュニティバスは、4月から補助金に頼らない「本格運行」に切り替わります。しかし、地域の皆様の利用が低下し赤字に転落すれば、廃止もあり得ることから、「コミバスは地域住民が支える」という意識を高めるとともに、バイオディーゼル燃料にかかる回収システムの確立など、環境への配慮と安定運行の両立を目指した取り組みを推進します。

JR学園都市線は、平成24年春の電化を目指していますが、最終便の終着をあいの里公園駅から石狩当別駅まで延長する要望活動を進め、また、札幌駅前などでPRイベントを実施し、当別町の存在感を積極的にアピールする事業に取り組みます。

◆少子化対策

「少子化対策検討会議」から、①少子化の速さを住民に知ってもらうこと、②少子化対策は最優先の課題であること、③少子化対策専門部署を設置し、取り組みを検討すること。という中間報告をいただいています。

働き盛りの子育て世代の人口流出を回復するため、詳細な原因分析を行い、少子化対策専門部署を新設するために検討チームを設置します。

◆道路・河川の整備

道路及び河川の維持・整備費を前年比20%増として、施設整備に最大限努力します。橋梁長寿命化、十五線防雪柵設置、太美西四丁目線道路改良、林道青月線大規模改良を進め、安全・安心な道路の整

備を図り、また、パンケチュウベシナイ川河川改修を実施し、防災対策を推進します。国道337号、江別～当別～石狩間の美原道路が開通しましたが、札幌大橋～国道275号までの区間の早期4車線化を関係機関に強く要請します。

◆行財政の健全化

ピーク時に197億円であった町債残高も144億円まで減少し、財政健全化を進めていますが、景気の低迷による税収の減少、国民健康保険特別会計の赤字など厳しい財政状況は変わりなく、引き続き、財政運営計画に基づき収支バランスの均衡に向けた取り組みに努めます。

国の地域活性化交付金の活用により、当別小学校屋内体育館建替、町道側溝・防護柵改修、町道オーバーレイ、街灯照明取替、学校図書の実質、給食センター設備の改修、大学の財産を生かしたまちづくりの推進など、事業費を国費に振り替えるなど工夫して取り組みます。

歳入の確保としては、町税や国民健康保険税に対するコンビニ収納サービスを水道料金及び下水道料金にも拡大し、より納入しやすい環境づくりに努めます。

当別町土地開発公社は、分譲宅地の早期完売が見込めない中、このまま公社の借入金が膨張し続けると、町財政に大きな負担が生じると判断し、平成23年度をもって解散することとしました。

